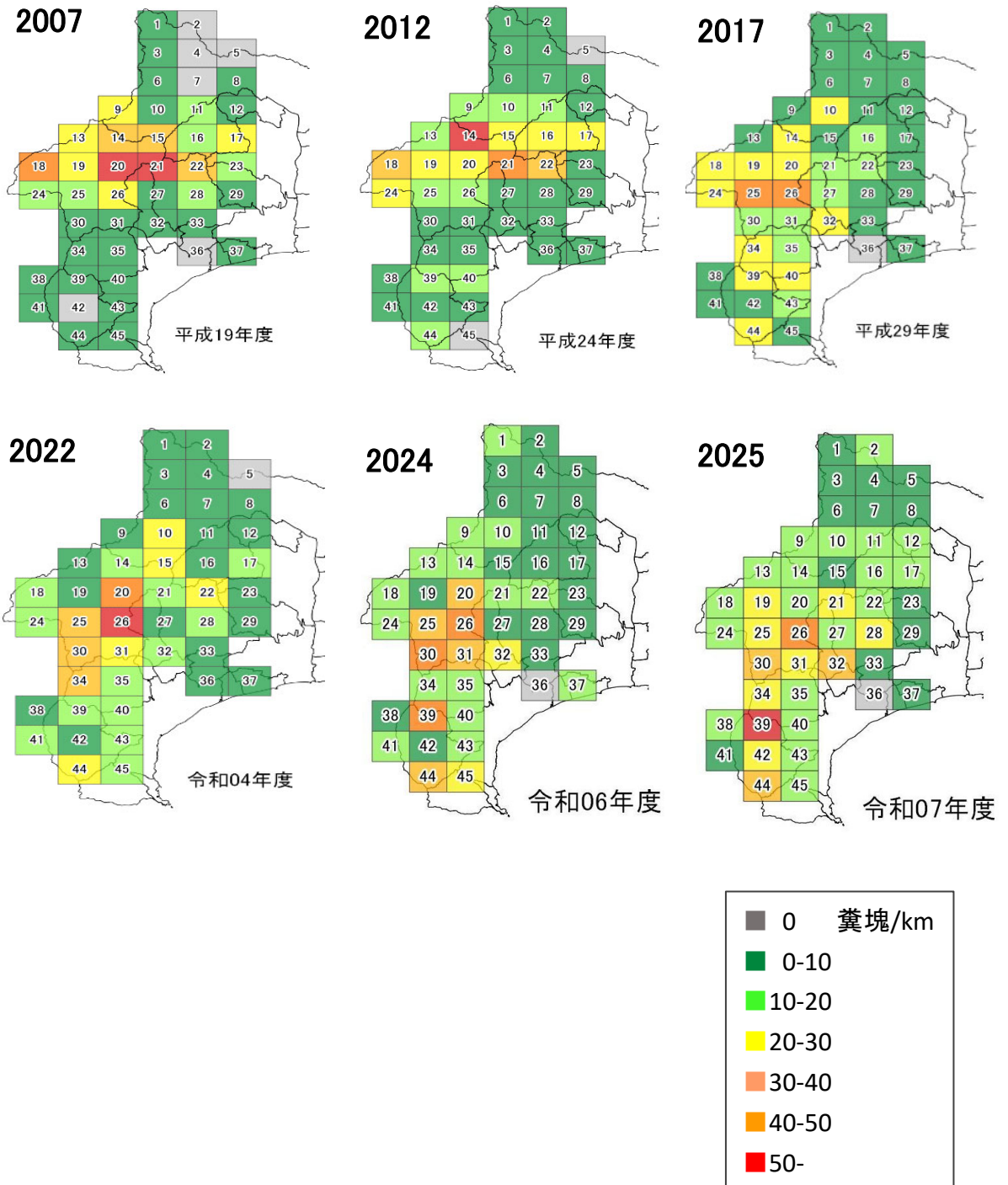


令和7年度モニタリング速報値（自然環境保全センター）

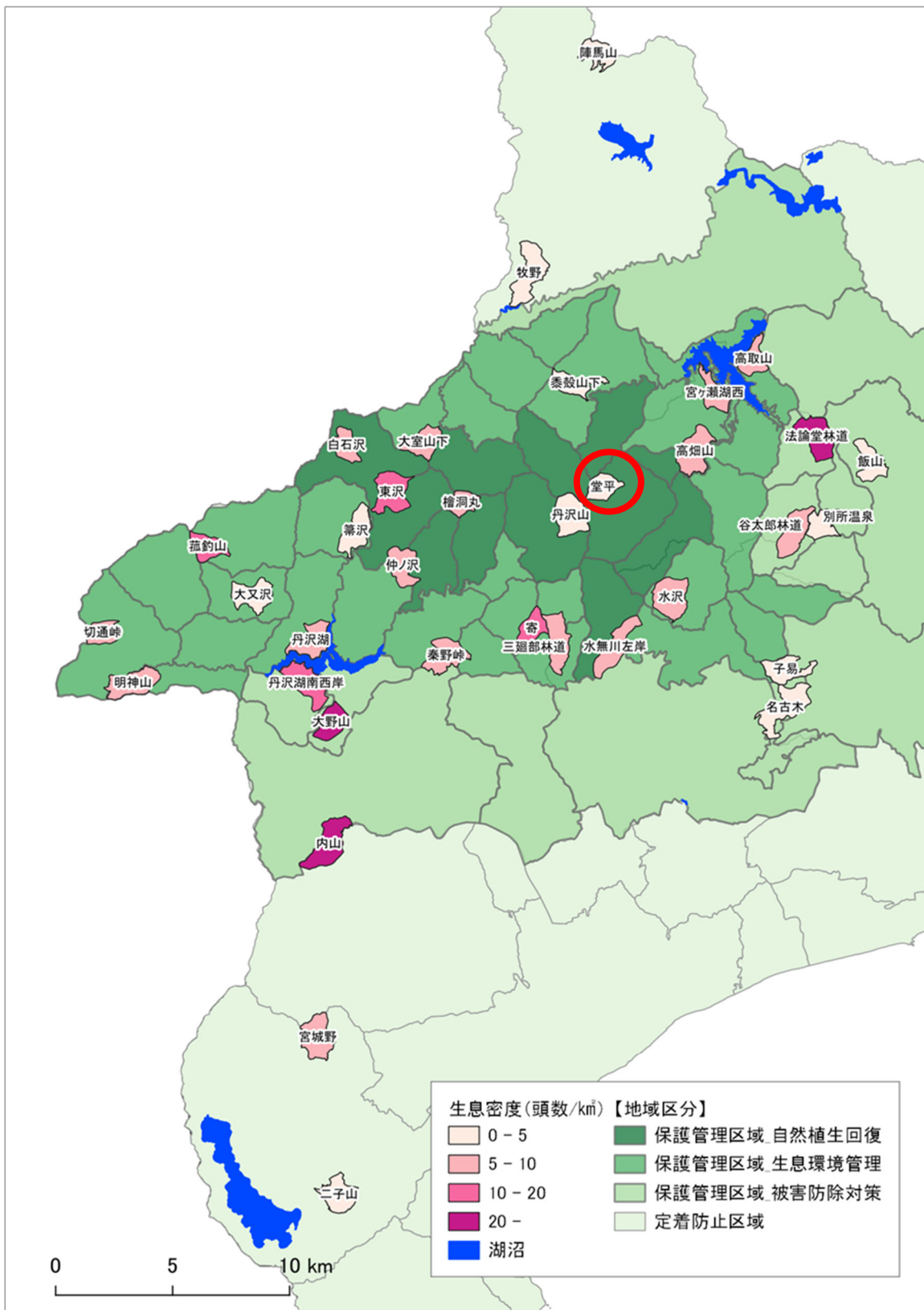
1 糞塊密度調査結果



※メッシュサイズは約5km四方。

メッシュ内の踏査ルート1kmあたりの糞塊数で色分け。

2 区画法による生息密度調査結果(2025年度)

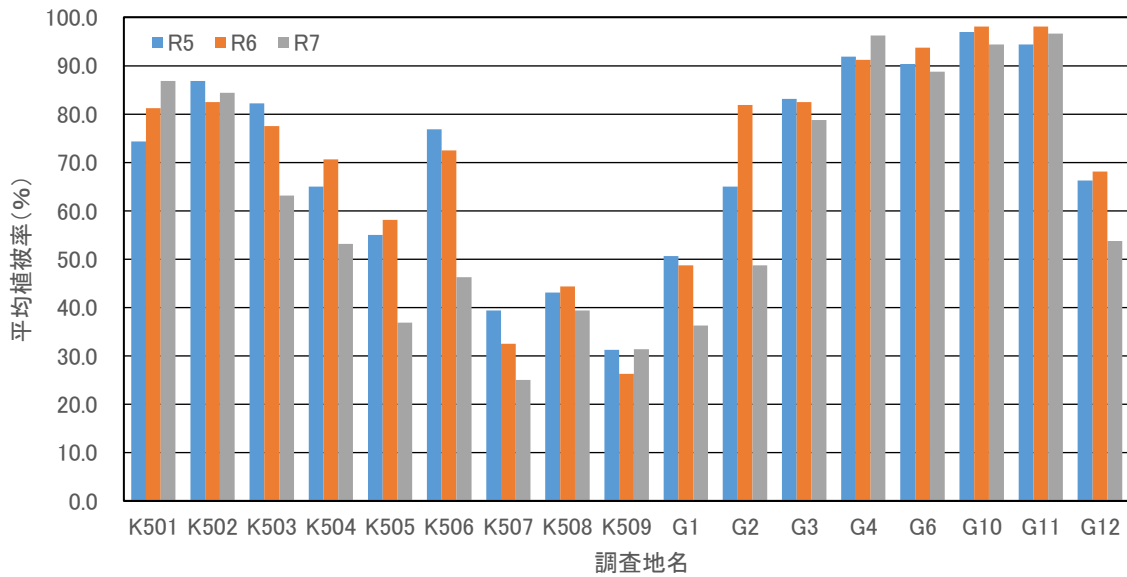


※赤丸は、次ページ「3 堂平における管理捕獲の集中実施による植生回復過程の検証調査」の調査地

3 堂平における管理捕獲の集中実施による植生回復過程の検証調査

(1) 林床植被率

中央値 (n=8)



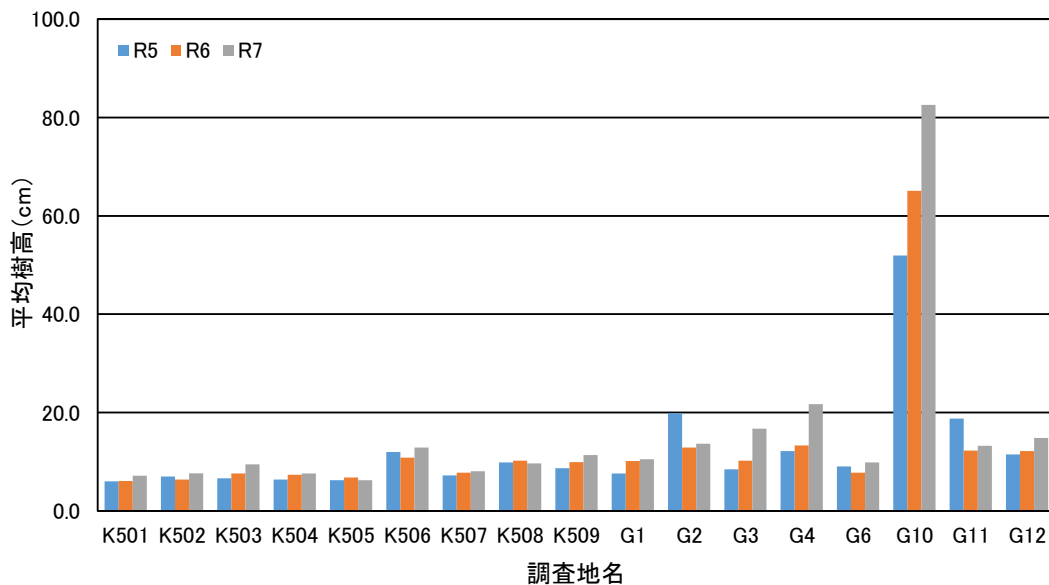
※各調査地に 1 m × 1 m 調査枠が 8 個あり (以下共通)

※K は林冠下、G は林冠ギャップ下の調査地 (以下共通)

- ・ 調査開始時点 (2023 年) で既に植被率が 50%を超えている地点が多い。
- ・ 一部調査地点では、植被率の低下がみられる。

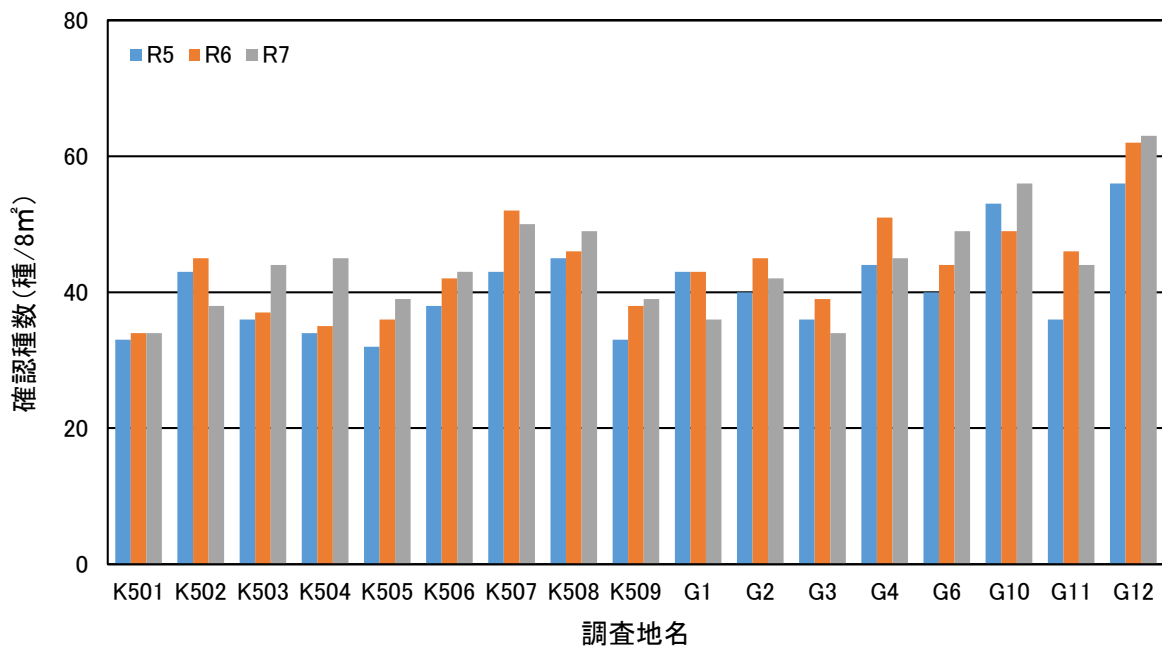
(2) 樹木稚樹の樹高

中央値 (n=8)



- ・ 高木性及び小高木性稚樹 (高さ 5 cm 以上 300cm 未満) 上位 5 個体の平均樹高。
- ・ 林冠ギャップの G4 と G10 で顕著に高くなっていた。
- ・ 樹高が顕著に高い樹種は、オオバアサガラであった。

(3) 確認種数



- ・ 確認種数が経年で増加している地点は、17 地点中 8 地点。
- ・ K504 では 10 種以上増加し、オオバノキハダ、シナノキなどの高木、クマイチゴ、ニガイチゴなどの低木、ヘビイチゴ、ヒトリシズカなどの草本を新たに確認した。